

村井議員

5、道路行政

②水路・側溝転落防止対策について

わが党は、水路、側溝、ため池への転落事故防止策を求めてきました。

福山市は、緊急箇所整備計画で市街地から転落防止柵の設置を進めてきました。

今日までに第4次計画が実施され、6780ha の対策が終わり、今後の3カ年で530haを整備し、2017年度までに7310haの全体計画を終了させたいと表明しました。

現在の進捗状況をお示してください。

2013年度、水路・側溝などへの転落死亡事故は6件、負傷事故は64件、2014年度は死亡事故5件、負傷事故59件です。

今年度10月末までの集計では、転落死亡事故1件、負傷事故44件とのことです。

その分布状況を見ると中心市街地の転落死亡事故は減少している

ことがうかがわれますが、周辺部での転落事故が多く起きています。

これらの事故の、7310ha区域外にあたるものが何件あるのかお示してください。

新聞やテレビでは、隣の岡山県で高齢者の水路転落事故が増加しており、急速な市街化に対策が追いついていないことが原因という、福山と共通の課題が報道されております。

改めて、市の周辺部を含む全域の対策強化が求められます。

今後、抜本的に予算を増やし、全市域を対象にし、周辺部や市街化調整地区の危険個所の対策を急ぐことが求められます。

ご所見をお示してください。

答弁

次に、水路転落事故防止についてであります。

まず、現在の進捗状況についてであります。

緊急箇所整備事業は、本市の重点事業として、市街化区域を中心に、約7,310ヘクタールを対象として対策を進めており、転落防止柵の設置や水路の蓋かけなどの整備を昨年度末までに、約107キロメートル実施しております。

本年度につきましては、11月末時点で、約4キロメートルの整備を実施しているところであり、計画どおりに整備が進んでおります。

次に、緊急箇所整備事業の区域外の事故件数につきましては、10月末時点で、死亡事故は無く、負傷事故が15件であります。

区域外の転落防止対策につきましても、状況に応じた対応を行ってまいりたいと考えております。

以上